

## CT・MRI・RI検査予約申込用紙

送信先:新潟医療生活協同組合 木戸病院 地域医療連携室

TEL:025-256-6700 FAX:025-256-6710

紹介元医療機関:

医師名: \_\_\_\_\_ 先生

TEL: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_

フリガナ			男・女	生年月日	明・大・昭・平		
患者氏名					年	月	生
住 所	〒				TEL		

希望検査 CT MRI RI

検査部位、内容など ( )

造影剤使用(CT/MRIの場合) する しない

読影希望 あり なし

データ希望 要(CD・フィルム) 不要

予約希望日 年 月 日 ( )

※予約調整を行いますが、ご希望通りにお取りできない場合もあります。予めご了承下さい。

検査目的

# MR I 検査 事前問診票

氏名 ( 才 ) 男・女 入院・外来

体重 k g 記入日：平成 年 月 日

1. MR I 検査を受けたことがありますか? (いいえ・はい・わからない)  
検査部位 ( )
2. 手術をしたことがありますか? (いいえ・はい・わからない)  
どんな手術ですか? ( )
3. 心臓ペースメーカー  
埋込式除細動器 } を使用していますか? (いいえ・はい・わからない)
4. MRI 用の造影剤を使用したことがありますか? (いいえ・はい・わからない)
5. 造影剤を使用した際、気分が悪くなったり、皮膚が赤くなつたことがありますか?  
(いいえ・はい・わからない)
6. 狹い所に入ると気分が悪くなることがありますか? (いいえ・はい・わからない)
7. 補聴器、人工内耳、コンタクトレンズを使用していますか?  
(いいえ・はい・わからない)
8. 入れ歯、又は磁石を使用した入れ歯、インプラントを装着していますか?  
(いいえ・はい・わからない)
9. (女性のみ) 現在妊娠中ですか? (いいえ・はい・わからない)
10. (女性のみ) 授乳中ですか? (いいえ・はい)
11. その他、お気づきのことがありましたら、ご記入ください。

医師署名

## MRI検査および造影剤使用検査に伴う問診と説明・同意書

MRI検査は、磁場の中で体内の水素原子の核磁気共鳴現象を測定し、コンピューター解析し体内の構造を画像化する検査です。

体内にペースメーカーなどの金属や電子機器が入っている方は、検査ができません。

また、危険ですので検査室内には金属製品や電子機器を持ち込まないでください。

さらに、疾患の詳細な診断のために造影剤を使用した検査が必要な場合があります。

造影剤の使用に当たっては、薬剤、特に造影剤使用によるアレルギーの問診を行い慎重に投与いたしますが、稀に即時性副作用や遅延性副作用が生じることがあります。

副作用が発生した場合には、できる限り速やかな対処、治療を行ないますが、重篤な状態にいたる場合もあります。詳しくは説明書をご参照下さい。

MRI検査前の問診です。

- ・体内に金属や電子機器が入っていますか？ はい いいえ
- ・閉所恐怖症ですか？ はい いいえ
- ・この検査を受けたことがありますか？ 初回 2回目 3回以上

MRI造影検査前の問診です。

- ・以前の造影剤検査で皮膚、血圧、呼吸など異常がありましたか？ いいえ はい
- ・ご自身や血縁者に喘息やアレルギーの方はいらっしゃいますか？ いいえ はい
- ・腎臓の病気がありますか？ いいえ はい (病名： \_\_\_\_\_)  
(クレアチニン値 mg/dl)

## **MRI検査および造影検査の同意書**

医師より上記のMRI検査および造影検査の必要性と、造影剤による副作用についての説明を受けましたので、本検査を受けることに同意いたします。

平成 年 月 日

患者様氏名： \_\_\_\_\_

説明を受けられた方： \_\_\_\_\_

続柄：( \_\_\_\_\_ )

## MRI 造影検査と副作用に関する説明書

### 1. 造影検査の目的

今回実施する検査において、**MRI の造影剤**を注射する場合があります。

造影剤を投与する事によって各臓器の病気をより明確に描出し、それぞれの検査においてさらに有用な情報が得られます。

腎機能が正常な場合には、造影剤は約 24 時間以内に、尿として体外に排泄されます。

### 2. 造影検査を受けられない方

アレルギー体質の方、中でも喘息の方は造影剤による副作用が発生しやすいといわれ、注意が必要です。

次に該当される方は、担当医にお知らせ下さい。

- 1) 以前、造影剤で副作用が出た、具合が悪くなった方
- 2) ご本人または血縁者に喘息やアレルギーがある方
- 3) 腎臓の病気がある方

### 3. 造影剤による副作用

副作用の発現は、検査中や検査直後に発生する即時性副作用が多く、軽症なものから重篤な副作用の発現の頻度は 1.2% 程度です。

#### 1) 即時性副作用の症状

注射局所の反応：注射部位から中枢にかけた皮膚発赤・腫瘍・疼痛・搔痒感

全身反応：しびれ感・熱感・頭痛・眩暈・耳鳴り・不安感・頻脈・血圧低下・不快感・  
口内や咽頭部異常感・口渴・咳嗽・喘鳴・腹部蠕動・発汗・悪寒・発疹

また、稀に（1.9 万人に 1 人程度の頻度）で重い副作用（呼吸障害、意識障害、ショック、腎不全など）が発生し、さらに死亡例は約 83 万人に 1 人の割合で発生すると報告されています。

#### 2) 遅発性副作用

稀に、検査終了後数時間から数日後に倦怠感、頭痛、蕁麻疹などが発生することがあります。

重篤な腎障害がある場合には、体内に蓄積し皮膚の肥厚硬化や関節の動きに制限が生じる事があります。

### 4. 緊急時の対応

#### 1) 即時性副作用

検査中は医療スタッフが常に観察しています。副作用が生じた場合には、できる限り速やかな対処を行ない、必要に応じて医師が速やかにかけつけ治療します。

#### 2) 遅延性副作用

数時間から数日後に異常を認めたら、すぐに受診している診療科に、休日・夜間の場合には救急外来にご連絡下さい。その際には、いつ、どのような検査で造影剤の注射を受けたか忘れずにお話し下さい。